

# 小児医療体制検討専門委員会

(令和2年度)

## 小児医療体制検討専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 小児医療体制検討専門委員会

委員長 岡田 賢

### I. はじめに

本委員会は第7次保健医療計画における小児医療対策と整合性のある取り組みを検討することを目的に設置され、小児科の医師確保計画の策定などを行ってきた。今年度は小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響や第7次広島県保健医療計画の見直し、福山市民病院の小児救急医療拠点病院指定などについて協議を行った。

### II. 開催状況

#### 1) 第1回委員会(令和2年12月9日開催)

##### ①要旨

広島県の小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響等に関して情報共有を行ったほか、第7次広島県保健医療計画における小児医療(小児救急医療を含む)対策の中間見直しの対応方針について報告があり、それぞれ意見交換を行った。

##### ②協議事項

#### (1) 小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響等について

初めに広島県医療介護人材課より、広島県の小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響や対応等に関して報告があった。県内の12月7日までの累計患者数は1,128人であるが、うち10歳未満が28人(2.5%)、10代は51人(4.5%)である。また、令和2年度の小児救急医療拠点病院における小児救急外来患者数は4月～8月の合計で前年度比-70%前後と小児救急への影響は非常に大きくなっている。また、小児救急医療電話相談件数も減少しており、特に発熱、咳、嘔吐等が大きく減少していることより、感染症の発症自体が減少したものと考えられる。コロナ禍における医療機関の経営状況等に関する調査では、約8割の医療機関の経営状況が悪化しており、そのうち小児科では6割強の収益状況が採算割

れとなり、特に影響を受けていることが報告された。また、県内の新型コロナウイルス感染が疑われる小児の対応フロー(図1)及び在宅の重症心身障害児(者)等の対応フローについての紹介もあった。

出席委員からは、小児救急医療体制への影響や受診抑制による診療所の経営悪化に伴う閉院等が懸念されることから、県行政に対して助成等を求める意見があった。

続けて、大田委員より、小児診療の実情に合わせて提案した、インフルエンザ、新型コロナウイルス同時流行に備えた発熱小児診療フローならびにCOVID-19検査フローについて説明があった。また、広島県小児科医会のワーキンググループで作成した「小児領域のCOVID-19/インフルエンザ検査に関するQ&A(Version 1.0)」について、特に疑問に思いついた点(総合的なことから、採取検体の種類や採取法、検査法や个人防护具(PPE)など)を中心に簡潔に分かりやすくまとめられているため、役立てていただきたいとの説明があった。

これらの報告・説明の後、各医療機関の新型コロナウイルス対応の現状等について情報共有・意見交換を行った。小児については感染者数も少なく、ほとんどが軽症であるとの報告の一方で、成人については感染者数の増加によりトリアージ等の現場が逼迫している現状について報告があった。また、小児についても陽性となった場合の入院先への懸念や、医療的ケア児の受け入れ体制を整える必要があるとの意見があった。

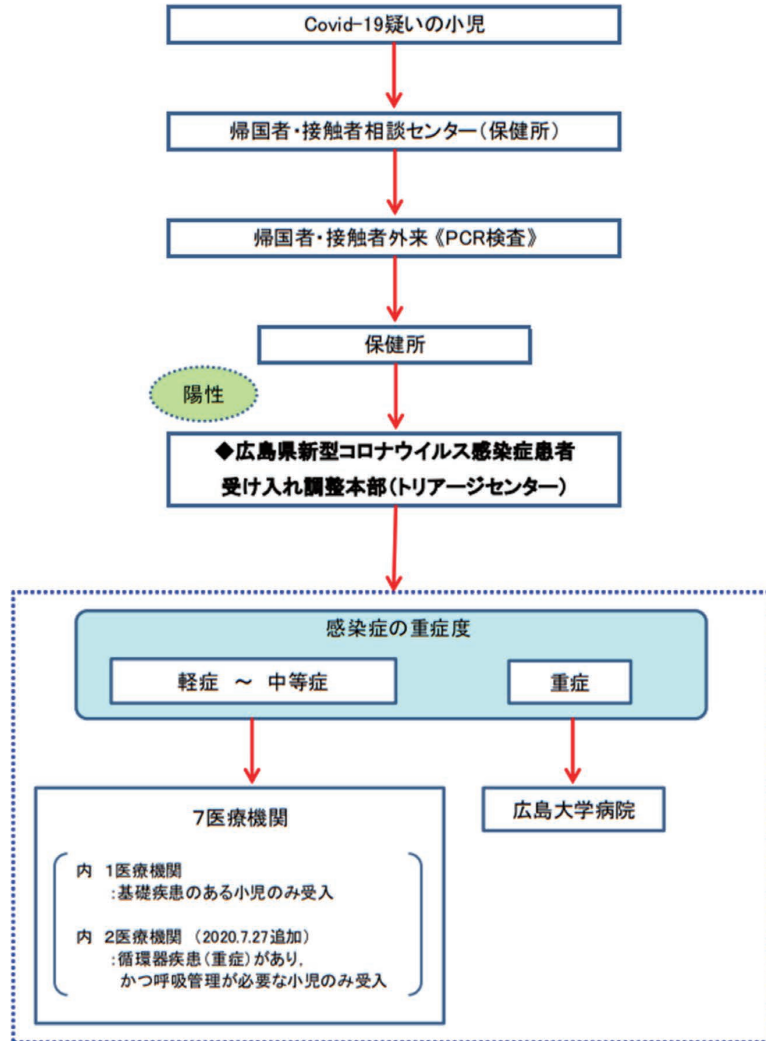
#### (2) 第7次広島県保健医療計画の見直しについて

広島県医療介護人材課より、第7次広島県保健医療計画における小児医療(小児救急医療を含む)対策の中間見直しにおける対応について、国の改正指針等で示された新たな追加指標例のうち、災害時小児周産期リエゾン任命数を指標として追加するとの方針が示された。またこの度、広島県災害時小児周

Covid-19が疑われる小児の対応フロー図

2020.5.29作成  
2020.7.27変更

広島県健康福祉局  
(地対協資料用に編集)



上記は現時点のフローであり、感染拡大の状況を踏まえ、必要に応じて随時見直しを行います

図1 新型コロナウイルス感染症（Covid-19）が疑われる小児の対応フロー図

産期リエゾン設置要綱が制定された旨も報告があった。国の追加指標例である小児訪問診療に関する3指標については、第8次広島県保健医療計画に向け、今後施策、指標を検討したいとの説明があった。

出席委員からは、既存の指標である乳児死亡率について、新生児・小児医療の水準をより正確に表す評価となる周産期死亡率で設定すべきとの意見があった。その他、小児科医の働き方について小児科医のさまざまな働きを国に示せるデータや、小児科における女性医師が働きやすい指標やサポートを求める意見や、重症心身障害児者などの移行期医療の

体制整備を求める意見があった。岡田委員長からは、今後の小児医療（特に小児救急医療等）の破綻が懸念されており、小児救急医療体制の確保に向けて、県が中心となり集約化等を進めてほしいとの意見があった。

(3) その他

福山市民病院の池田委員より、福山市民病院が令和3年4月の小児救急医療拠点病院指定を目指している旨、報告があった。

## 2) 第2回委員会（令和3年3月2日書面開催）

### ①要旨

広島県内の小児救急医療体制の偏在解消を図るため、福山・府中二次保健医療圏へ「小児救急医療拠点病院」を設置することとし、福山市民病院を小児救急医療拠点病院に指定することに関して異論はなく、指定に向けての事務手続きを進めることとなった。

### ②協議事項

福山・府中圏域における小児二次救急医療の安定的な確保・維持のため、福山・府中地域保健対策協議会保健医療計画委員会小児救急医療体制検討部会において福山市民病院の小児救急医療拠点病院指定についての協議および地域合意を図ってきた。本事業案について、広島県の小児（救急）医療提供体制構築の観点から、広島県地域保健対策協議会小児医療体制検討専門委員会委員による書面審議を行った結果、福山市民病院を小児救急医療拠点病院に指定することに関して異論はなく、指定に向けての事務手

続きを進めることとなった。

広島県（全県）の小児（救急）医療提供体制の構築については、2024年に予定されている医師の働き方改革を念頭にした、小児救急医療提供体制（初期救急および二次救急）の検討が必要との意見や夜間の小児救急、夜間の分娩対応、日中の診療応援などを近隣拠点病院間で役割分担することについての意見があり、次年度以降の検討事項とした。

## Ⅲ. ま と め

本委員会では小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響や第7次広島県保健医療計画の見直し、福山市民病院の小児救急医療拠点病院指定などについて活発な意見交換・協議を行った。小児医療における新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、今後は、医師の働き方改革を念頭にした小児救急医療体制の整備や効率的な小児科医師の人員配置などの対応を進める必要がある。

広島県地域保健対策協議会 小児医療提供体制検討専門委員会

委員長 岡田 賢 広島大学大学院医系科学研究科小児科学  
委員 池田 政憲 福山市民病院  
今井真由美 広島県健康福祉局医療介護計画課  
岩崎 和浩 広島県健康福祉局障害者支援課  
岩瀧真一郎 JA尾道総合病院  
大田 敏之 広島県医師会  
岡野 里香 広島市立舟入市民病院  
小野 厚 市立三次中央病院  
加藤 聰 重症児・者福祉医療施設鈴が峰  
川口 浩史 広島大学大学院医系科学研究科小児科学  
小西 央郎 中国労災病院  
斉藤 一博 広島県健康福祉局医療介護人材課  
下田 浩子 東広島医療センター  
神野 和彦 県立広島病院  
辻 徹郎 JA広島総合病院  
遠山 郁也 広島市健康福祉局保健部医療政策課  
中西 敏夫 広島県医師会  
西村 裕 広島市立広島市民病院  
福原 里恵 県立広島病院  
馬渡 英夫 広島県立障害者療育支援センターわかば療育園  
森 美喜夫 広島県小児科医会  
安井 耕三 広島市立広島市民病院